

## 令和7年度 第2回丹波市「トライやる・ウィーク」推進協議会（会議録）

◇開会 令和7年12月18日（木）午後1時30分

◇閉会 令和7年12月18日（木）午後2時45分

◇会場 山南住民センター 1F 学習室B

◇出席者 ・推進協議会委員 吉竹主税（会長）、湊上智帆、上羽裕樹、中川卯衣、平瀬憲利、  
荻野幸子、数元康治、徳田隆代、清水邦泰、荻野幸広、葛木伸一郎  
・事務局 片山則昭（教育長）、小森真一（学校教育課長）、  
小玉文奈（学校教育課主査）、酒井陽祐（学校教育課指導主事）

（以上15名）

発言者	内 容
	<p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>3 令和7年度の取組について（報告）</p> <p>4 協議内容</p> <p>（1）令和7年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」について</p> <p>（2）令和8年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施について</p>
吉竹会長	<p>最初に、先ほど報告がございました、令和7年度の「トライやる・ウィーク」の実施状況等につきまして、何かご質問がありましたら先にお受けします。その後、それも踏まえながら、令和8年度の取組について、いろいろとご意見をいただきたいと思います。</p>
清水委員	<p>事業所アンケートや保護者アンケートについて、2校に限られた理由を教えてください。</p>
酒井	<p>教職員の業務改善の観点です。県内全ての市町で、今年度からアンケート対象校を約3割にしています。本市もそれに従い、6校中2校を対象としました。</p>
葛木委員	<p>共同受入先事業所についてご解説いただきたいです。また、「トライやる」アクションの取組について、もう少し具体的にお伺いできればと思います。</p>
酒井	<p>1点目についてです。共同受入先というのは、市内6中学校の生徒が参加できる事業所になります。受入日数に関しては、2日間であったり、5日間であったりと、その事業所によります。</p> <p>2点目の「トライやる」アクションについては、例えば、参加した事業所に、「トライやる・ウィーク」実施以降、その事業者で催されるイベント等を企画運営したり、補助したりする活動になります。</p>

薦木委員	<p>2点目の「トライやる」アクションについてですが、「トライやる・ウィーク」実施後の行事の際に、改めて生徒さんが参加されるということですが、その情報提供は、どのようにされているのでしょうか。市民活動支援センターでも毎年受入させてもらっていて、「トライやる・ウィーク」前後のイベントに、生徒さんたちにもご案内をして、自主的に来られています。「トライやる」アクションを実施されてる学校では、どのように情報提供をされているのかを教えていただけると嬉しいです。</p>
荻野幸子 委員	<p>山南中学校でしたら、例えば薬草薬樹公園に行かせていただいています。今年秋に行われた漢方の里まつりについては、ボランティアも兼ねていますので、全校生に案内しています。その中で、参加したい生徒が参加するというような形で希望者を募っています。</p>
上羽委員	<p>教職員アンケートの部分で、経年変化の部分が、他のアンケートと違って記載されていないのはなぜですか。</p>
酒井	<p>特に理由はありません。今後、経年比較が参考になると思いますので、今のご意見をいただき、来年度反映したいと思います。</p>
上羽委員	<p>私も青年会議所のマナー講習を担当させてもらっていて、担当の先生とお話させてもらったこともあります。先生方がすごく大変な手続きをされながら「トライやる・ウィーク」当日を迎えておられるという印象です。この協議会にも何度も出席させてもらっていますが、今年度の教職員アンケートがこれまでと比較してすごく差があるような印象を受けます。やはり、先生の負担が多いという意見が毎年出ていて、先生方の本音の部分聞いていかないと、この教職員アンケートは改善されないと思います。教職員アンケートが改善されないと、生徒アンケートも改善されないのではないかと思います。</p>
吉竹会長	<p>今年、アンケートの対象が6校から2校になったという影響もあるかもしれません。去年の6校での調査結果がわかりましたら説明をお願いします。</p>
酒井	<p>(昨年度の教職員アンケートについて概要を説明)</p>
吉竹会長	<p>去年の数値を踏まえて、色々のご意見をいただきたい柱の1つが、この教職員アンケートの結果です。中学校の先生方に大変負担をかけている部分があるのではないのでしょうか。中学校の職員の方で、参考になるようなことがありましたらお願いします。</p>
平瀬委員	<p>この教職員アンケートについては、肯定的回答の数値が減少しているのがよくわかります。柏原中学校の報告集の92ページに柏原中学校だけの数値を記載しています。21人</p>

	<p>が回答しており、そのうち、この「トライやる・ウィーク」に実際に関わっている生徒を直接指導している先生は、2年生の学年に所属しているに在る6、7人です。よって、「生徒に変化が見られた」と言われても、普段接していないので、実感がないということも関係していると思います。実際に、2年生の学年に所属している先生に聞くと、多くの先生が「生徒に変化が見られた」と感じています。また以前は、2年生の学年に所属している先生は「トライやる・ウィーク」実施中、その活動に注力することができました。しかし、学級数が減り、2年生所属の先生が、1年生にも、場合によっては全学年の教科を担当する場合があります。そうすると、活動中の生徒の様子を見に行く余裕が全くないという状況になります。それだけの負担がありながら、実施に関わる業務は変わらないという負担感はあるかもしれません。</p>
荻野幸子 委員	<p>今年度、私も初めてこの「トライやる・ウィーク」の担当になったのですが、とても大変でした。事業所への文書1つ作成するにも時間がかかります。事業所の数は変わらないけれど、先生の数が減っているので、負担が増えてきているということもあります。私だけではなく、他の先生方も大変だったのではないかと思います。ただ、「トライやる・ウィーク」自体にとっても意味があり、生徒にとってとても大事な活動であることは私たちも実感しており、できるだけ子どもたちのためになるように取り組んでいます。だから、手を抜けない取組だと考えています。教職員アンケートの結果は低いように見えます。しかし、例えばこの「教育活動を考える契機となった」という質問ですと、もうすでに私たちはこの「トライやる・ウィーク」の大切さを知っています。すでに気が付いているという捉え方もあります。また、「生徒たちに変化が見られた」という質問については、中学生が年々幼くなってきているということも関係しているのではないかと個人的に感じています。生徒たちは、5日間、事業所での活動を緊張して頑張ります。1週間後、学校に戻ってくると、緊張が解けて、やっと自分を出せるということがあると思います。甘えかもしれませんが、安心して自分の姿を見せてくれているように感じています。「すごい緊張した」「大変やった」「楽しかった」などと、たくさん話をしてくれますが、そういう様子を見ると、普段と変わっていないというような評価になってしまうと感じています。</p>
吉竹会長	<p>現場の状況を伺って、大変参考になりました。ありがとうございました。「トライやる・ウィーク」を有益な活動ととらえた教職員が約半数に留まったということと、どのように読み取っていくのかが必要であり、学校運営協議会とも連携を図るなど、色々と工夫をしながら、先生方の負担を減らすために工夫することが大切であると思っております。私からも質問ですが、この毎年のアンケートについては、全県同じアンケート項目になっているのでしょうか。</p>
酒井	<p>はい。全県同じ項目です。</p>

吉竹会長	<p>それでは、全県統一のアンケートは取りながら、これまで議論になったような教職員アンケートなど、丹波市独自のアンケート項目を作って調査し、それを踏まえて考えていくというのも1つの方法だと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
中川委員	<p>私もまさに吉竹会長と同じ意見です。「引き出したい」「聞き出したい」ことが答えられるような質問を県のアンケートに付け加えたらどうかと思います。先ほど、生徒アンケートで事務局が報告された生徒の感想はとても素晴らしいと思います。今回学んだことが将来ではなく、今の自分にどうフィードバックしているのかまで考えて感想を書けたこの生徒は、今回の体験を自分のものとして捉えていて素晴らしいと思います。しかし、何もないところからここまで導き出せる生徒はやはり少ないと思います。だから、ここに考えが至るような質問を投げかければ、この体験は今日の自分や明日の自分に繋がる体験だと感じられることができる生徒がもっと増えるかもしれません。そういうことを引き出せるような、丹波市独自の質問をアンケート項目に入れられたらよいのではないかと思います。それともう1つですが、アンケート対象が全体の3分の1だとしたら、6校のうち2校の先生にアンケートをするのではなく、6校全ての2年生の担当の先生方を中心にアンケートをとれば、子どもたちの新たな側面の発見があったとか、変化が見られたという意見がリアルな数字になるのではないかと思います。</p>
小森課長	<p>県から指示のあるアンケートについては、ご意見は申し上げておこうと思います。県のアンケートが変えられないものであれば、先ほどから意見していただいているように、また校区推進委員会と連携しながら、丹波市として知りたいことを対象の方に聞けるような形を模索していこうかと思います。県に提出しなければならないアンケートについてはこれまで通り対応しておき、今回、焦点を当てていただいたところは、深く掘り下げられるような形を各学校と相談しながら考えていきたいと思っています。</p>
吉竹会長	<p>この件についてはこの辺りにします。他にもたくさんの委員の方にご出席をいただいておりますので、何かご意見等ありましたら、いただけたらと思います。いかがでしょうか。</p>
葛木委員	<p>先ほど平瀬委員にご紹介いただいた教職員アンケートにおいて、校区推進委員会が機能しているかどうかというアンケートの項目についてです。自由記述欄にも結構はつきりと推進委員会が機能してないと書いてあり、先生方の負担が大きいというご意見だと思うのですが、やはりそのあたりにすごく課題があるのかなと感じています。生徒アンケートの結果でも「トライやる・ウィーク」が終わってから、その事業所を訪ねたいかという回答も少し低いですし、事業所側の中学生に対する見方があまり変化しないということは、多分そこまで5日間で深い関係性にならないのかなと感じています。我々も受け入れをしていて、5日間生徒さんを大切に預からないといけないという部分もあり、強く深く関わるのが、5日間では難しかったりします。そう思うと、やはり事前の調</p>

	<p>整やコーディネート、マッチングがすごく大切になると思います。例えば、校区推進委員会のあり方や役割、場合によってはコーディネートをしてくれる方を推進委員として置くなどです。また、丹波市は地域学校協働活動にも力を入れていらっしゃると思います。学校によっては、地域学校協働活動推進員さんがおられますが、この「トライやる・ウィーク」推進委員会には入られていないと思います。そのあたり、コーディネーター的な役割の方にどう関わってもらえるかという仕組みづくりが、1つの課題だと思います。</p>
<p>荻野幸広 委員</p>	<p>引き続きアンケート等のことになるのですが、事業所アンケートの中の「この活動に関わる中学生に対する見方が変わった」という質問についても、答える人次第で回答が変わると思うので、この質問についても市独自で工夫してもらえたらと思います。青年会議所では、毎年事前勉強会を各中学校で実施させていただいています。学校が本当に求めていることが、各事業所さんにあまり伝わっていないかもしれません。事業所さんの中には、「5日間面倒を見なければいけない」「何か仕事を考えなければならない」という負担を感じている方々もいます。しかし、学校の先生方にヒアリングしていくと、「何か仕事をさせてほしい」ではなくて、「学校では教えられない新たな価値観などを子どもたちに伝えてほしい」というようなところを本当は求めておられると感じています。学校で勉強するのですが、なぜ勉強するのかを僕たち地域の者がどれだけ伝えてあげられるか、働くことってすごく良いことだよね、言葉遣いって一体何に繋がるんだろう、コミュニケーションのことなど、これらが本質なのではないかと思っています。そういった部分を事業所に対して、学校側からある程度要望を出していただくことで、「トライやる・ウィーク」での子どもたちの成長に繋がると思います。そういった部分にもう少し力を入れた方が良いのではないかと感じました。</p>
<p>酒井</p>	<p>これまでの意見をお聞きし、改めて各中学校区の推進委員会の位置付けが大事であると思います。先ほど紹介しました通り、推進委員会には教職員だけではなくて、商工会や福祉関係、保護者の方々、そして教育委員会からも参加させてもらっています。このアンケート結果を踏まえた、教職員の実態や困り感をそこで共有するという貴重な場になると思います。学校のニーズとして、新規事業所開拓のように、推進委員会に事業所とのパイプ役をしてほしいという意見があります。改めて今年度末の校区推進委員会に出席したときに、教育委員会の立場として、そういったことを発信していくことが大事だと思っています。</p>
<p>吉竹会長</p>	<p>事務局から伺っております時間がやって参りました。まだご発言をいただいていない委員もおおいでになるのですが、時間になりました。今日は学校の取組等について、色々ご意見を賜りました。いずれにしましても送り出していただく学校、それから受け入れていただく事業所、この両輪の中で、家庭や地域での応援というものが成り立って、この「トライやる・ウィーク」は成立していくというように思います。受け入れてもら</p>

<p>酒井</p>	<p>事業所のことについても色々と意見を出してもらえれば思っておりましたが、時間がなくってしまいました。そのあたりのところも事務局の方でご検討いただいて、来年度に繋げていただけたらと思います。各学校からいただいた報告集の生徒の感想を読んでもありましたら、この「トライやる・ウィーク」は、学校では学ぶことのできない貴重な体験をこの1週間で学んでいると、改めて思った次第でございます。事務局の方々も色々とお苦勞があらうかと思いますが、来年度に向けて、今日出していただいて意見を整理していただき、取り組んでいただけたらありがたいと思います。また、今日ご出席をいただいた委員の皆さんも、それぞれの立場でご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>吉竹会長、お忙しいなか司会進行どうもありがとうございました。本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今日の会議録を、第1回目と同じように市のホームページにて公開させていただきます。委員の皆様には内容確認のために、後日、会議録を送付させていただきますので、その際には発言内容等、ご確認よろしくお願ひします。以上をもちまして、令和7年度第2回丹波市「トライやる・ウィーク」推進協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>
-----------	---